

「市民による平和宣言 2018」

- 朝鮮戦争と安倍の嘘を終わらせ、憲法9条を生かす時代を切り開こう -

1944年末から始まった米軍による日本の本土空爆は翌年8月の14日まで毎日のごとく続き、最終的に16万8千トンにのぼる爆弾・焼夷弾を投下した。その結果、東京、大阪をはじめ日本全国の393市町村の人々が無差別爆撃の犠牲者となった。そのうえ、1945年8月6日、9日の原爆無差別大量殺戮では、推定21万人（内4万人が朝鮮人）を殺害。米国が犯した日本市民無差別爆撃という重大な「人道に対する罪」の推定死傷者総数は102万人（その7割が女性と子ども）、その半数以上の56万人が死亡者と言わわれている。さらに沖縄戦では15万人にのぼる市民の命が奪われた。しかし、その日本は、15年間にも及ぶ無謀な侵略戦争で、推定2,100万人という数の死傷者の犠牲を中国に、その他にも数百万という数にのぼる死傷者の犠牲をアジア太平洋の様々な住民に強いた国であり、朝鮮半島を36年も植民地支配した。

米国は、自国の戦争犯罪を隠蔽しながら、この未曾有の悲劇をもたらした責任者の一人である天皇裕仁を、日本占領政策を円滑にするため、とりわけ急速に高揚しつつあった共産主義活動とその思想浸透を押さえ込んでいくために、政治的に利用することを決定した。裕仁の「戦争犯罪と戦争責任」を帳消しにする形で、1946年11月3日に公布した日本国憲法の第1条で天皇を日本国と日本国民統合の象徴とした。よって、天皇は戦争責任に対する無責任の象徴でもある。しかし、幸いにして私たちは、この新憲法で、世界の全ての人々に平和的生存権があることを確認した「憲法前文」と、無条件での非戦・非武装主義を謳う9条を獲得した。

ところが1950年6月25日に朝鮮戦争が勃発するや、「警察予備隊」という名称で軍隊を創設し、早くも非武装憲法の骨抜きが開始された。1952年に、サンフランシスコ講話条約によって日本は一応「独立」を回復したが、講和条約と同時に締結された第一次安保条約で米軍に基地を提供し続けることになり、沖縄は軍事植民地化され、「自衛隊」と改称された軍隊は米軍の冷戦戦略に強固に組み込まれた。かくして、日本の米軍基地は朝鮮を空爆する爆撃機の発進・補給基地となり、アジア太平洋戦争で疲弊していた日本経済は「朝鮮特需」の恩恵を受けて急速に復興した。以後、在日米軍基地は、ベトナム戦争、湾岸戦争、アフガン戦争、イラク戦争という米国の侵略戦争の出撃拠点となり続けた。

2015年、ついに安倍政権は、部分的集団的自衛権行使すら合憲との解釈改憲で戦争法を制定した。このように、朝鮮戦争勃発から68年の間に、南北朝鮮分断、アジア冷戦、沖縄軍事植民地化、日米安保強化、核抑止支持などの様々な要因が、9条を破壊する因子として日本国の中に埋め込まれてきた。したがって、これらの憲法破壊因子を取り除き、9条を真に復活させるためには、私たちは、もう一度、朝鮮戦争の原点にまでさかのぼり、朝鮮戦争を完全に終わらせる必要がある。

4・27南北朝鮮首脳会談と6・12米朝首脳会談の成功は、新しい時代への扉をこじ開けた。韓国民衆の平和のための闘争が、この好展開の起動力となっている。次は、南・北・米・中4者会談の開催による朝鮮戦争の終結宣言である。これにより朝鮮戦争体制を前提としてきた在韓米軍と在日米軍の存在根拠が無くなり、日米安保体制が大きく激変する。沖縄や岩国などの米軍基地廃止に向けた運動を強化することで、朝鮮半島民衆、北東アジア民衆に連帯しうる可能性をたぐり寄せよう。

狭隘な愛国主義的憎悪で腐れきった安倍政権は、こうした動きを妨害しようと躍起になっていたが、さすがに日朝交渉を突然言い出した。しかし、拉致問題を正面に据えて交渉しても何も解決できない。侵略戦争の謝罪、戦後賠償としての経済協力という大きな枠組みの中でしか、拉致問題を解決する展望はない。私たちは日朝国交正常化交渉を誠実に行うことを日本政府に求める。

安倍政権が森友・加計問題で虚偽の発言を続けていることは誰の目にも明らかだ。また、原発被害（汚染水垂れ流し、増える健康被害など）は最早なくなったと嘘について住民強制帰還や住宅補償打ち切りを行い、「女性の活用」と嘘をつきセクシュアル・ハラスメント蔓延を放任し、「働き方改革」法でも嘘について長時間労働と正規・非正規格差を野放しにし、沖縄米軍基地負担軽減と嘘について辺野古基地建設強行をやり、北朝鮮核脅威と嘘について防衛予算を膨張させ、そのうえ西日本豪雨被災者救援よりはカジノ法強行採決、という嘘の政策で塗り固められた政権である。

ドイツの哲学者、カール・ヤスバースは「不眞実は本来的に悪であり、あらゆる平和の破壊者である」と述べた。安倍晋三首相のような人物の「平氣で嘘をつく能力」は、したがって平和に対する攻撃的能力である。また、嘘をつく能力は他人と自分自身の記憶を歪めたり抹殺する能力でもあるから、南京虐殺、強制連行、日本軍性奴隸などはなかったと人々の記憶を抹殺しようとする彼の「戦争責任否定」は、「嘘をつく能力」と密接に絡みあっている。現在と過去を嘘で支配しようとするのは、彼が私たちの未来をも嘘で支配したいからだ。一刻も早くこんな「大嘘ツキ政権」を打倒しよう！

8・6ヒロシマ平和へのつどい2018実行委員会 代表：田中 利幸

連絡先 090-4740-4608 (久野 成章) FAX: 082-297-7145 Eメール: kunonaruaki@hotmail.com